

中には眠っている宝が結構あるのです。最初は行政とだけの協働でしたが、社会福祉協議会、商工会、地域の自治会、学校、地域教育協議会などとの連携もしています。立場は違うけれども、一緒に目標を目指していこうねという信頼関係が大事だと思います。

山口から越してきたお母さんがいました。その人に必要な情報は、地域の医療とか園庭開放の話かなと思い込んでいたら、「山口では毎日、魚屋さんで魚を買ってすり身を離乳食にしていたのに、大阪にはパックに入った魚しかなくて、魚屋さんがいない。これで子育てできるかどうか不安です」と言われて、私はびっくりしました。子育ては生活と密着している。原点に戻って、地域の子育ては、柔軟性と、身近なことと、暮らしを支えるという視点が大事だと思います。

法律の枠組みをつくらなければいけないことはわかるのですが、アメーバと言わずに、柔軟性をよさととらえて、いろんな人たちが力を合わせていけたらと思っています。

○山縣 「信頼関係が大切です」と言っておられましたが、相手は行政ですか。行政以外ですか。

○岡本 一緒に仕事をするパートナーの行政、企業、社会福祉協議会や商工会などです。

○山縣 当然直営事業、公立が、信頼度は一番高いですね。その次は社会福祉法人とか学校法人という伝統的な法人、その次が町会なのか、NPOなのかということですが、どうも町会のほうが信頼度高そうです。NPOはやっぱりうさんくさい。NPOは法律に基づいてつくられている法人だから信頼しないといけないという前提で、行政は窓口を開いてくれたと思うのですが、住民は、「法律が何ぼのものじゃ」というところがあります。

○岡本 自主事業のときは22組ぐらいの利用者だったのが、市の事業になった途端に750組になったのです。行政が窓口になった途端に、広報力はすごかったですね。来る人の層も広がった。

○山縣 安心できる情報源から出てくるという発信力。たくさん来ればいい事業だというわけではないですが、信頼されていないから来ないというのは問題だと思うのです。

企業が入ることのプラスとマイナスがありますね。企業が入ることで安心感が出る部分と、逆に、パソコン講座をやったら最後はパソコンを買えと言われるのではないかとか。NPOはお金を余り持たない団体だという位置づけになっているので、そこをどうするかということを、後で議論できたらと思います。

井野さんは社会福祉法人で、もともとある程度知られていて、安定した拠点を持っていて、歴史もある。その中でどんな活動をしてられるのか、お話を聞きたいと思います。